

# 3 R 促進のためのポイント制度等経済 的インセンティブ付けに関する検討会 報告（最終取りまとめ）について

環境省

大臣官房廃棄物・リサイクル対策部

企画課循環型社会推進室

# 3 Rエコポイント検討会開催概要

- 検討委員

大島 美保

アスクル(株) 環境マネジメントマネージャー

大和田 順子

ロハスビジネスアライアンス共同代表

崎田 裕子 (座長)

環境カウンセラー・ジャーナリスト、中央環境審議会委員

小野田 弘士

早稲田大学環境総合研究センター 准教授

田崎 智宏

(独)国立環境研究所 主任研究員

(五十音順)

平成21年3月に検討会を立ち上げ、これまで計6回にわたり検討してきており、本年1月に最終取りまとめを公表

# 3 Rエコポイント検討の背景・目的

温暖化対策分野を中心としたポイントシステムなど経済的インセンティブ付けを活用した取組が進んでいる。3 R分野においてもポイントを付与する事例も見られる。

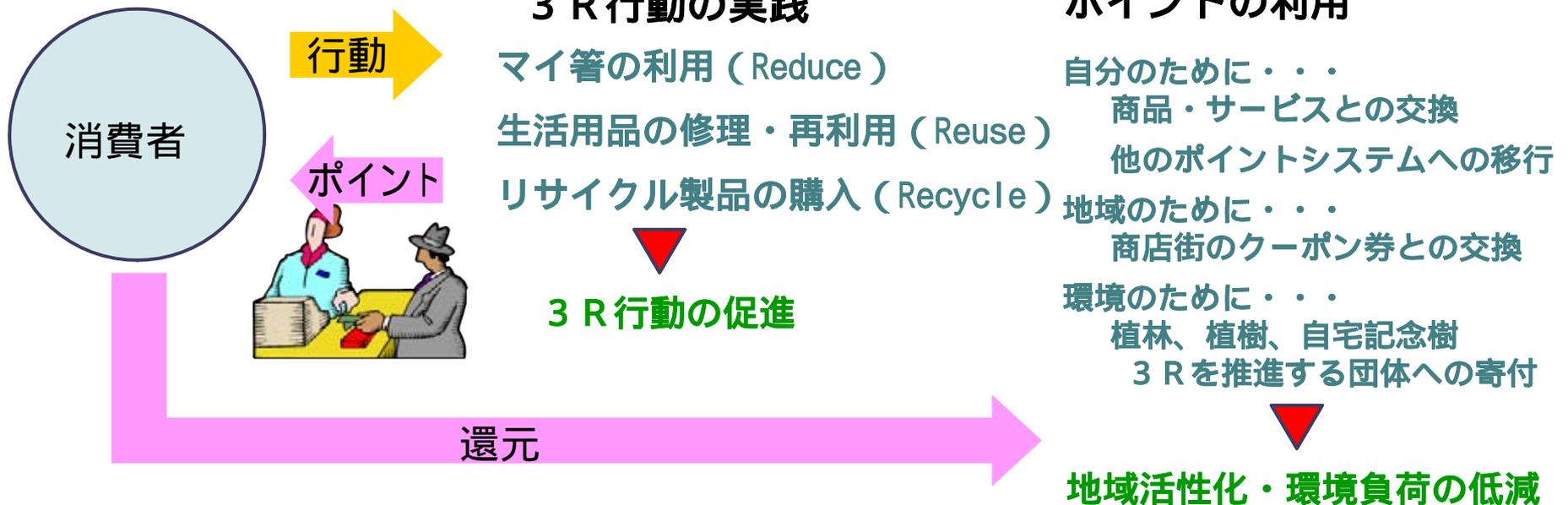
## 第二次循環計画における取組指標

取組指標	平成27年度目標
廃棄物の減量化や循環利用、グリーン購入について	
意識を持つ	90%
具体的に行動する	50%

平成21年度に行ったアンケート調査によると、循環型社会形成に向けた国民の意識については比較的高い回答率となっている一方で、具体的な行動については取組が浸透してきている傾向はあるものの低い回答率のものもあるという結果となっている。

 **ポイント制度の導入によるインセンティブ効果、見える化により、一人一人の具体的な3 R行動の促進**

# 3 Rエコポイントシステムとは・・・



特定の環境配慮行動（3 Rにつながる環境行動）を促進するため、当該行動に伴い、ポイントを付与するとともに、獲得したポイントを商品やサービス等と交換する制度全般のこと

# 政策手法の特徴

手法	概要	特徴	例
経済的手法	市場メカニズムを前提とし、経済的インセンティブの付与を介して各主体の経済合理性に沿った行動を誘導することによって政策目的を達成しようとする手法	持続可能な社会を構築していく上で効果が期待される	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 容器包装等の確実な回収のための預託払戻制度（デポジット）等</li> <li>・ 補助金、税金</li> </ul>
情報的手法	環境保全活動に積極的な事業者や環境負荷の少ない製品などを投資や購入等に際して選択できるように、事業活動や製品・サービスに関して、環境負荷などに関する情報の開示と提供を進める手法	製品・サービスの提供者も含めた各主体の環境配慮を促進していく上で効果が期待される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境報告書</li> <li>・ 環境ラベル</li> <li>・ 環境会計</li> <li>・ L C A</li> </ul>
自主的取組手法	自主的取組は、事業者などが自らの行動に一定の努力目標を設けて対策を実施するというもの	技術革新への誘因となり、関係者の環境意識の高揚や環境教育、学習にもつながるといった利点がある。事業者の専門的知識や創意工夫を活かしながら複雑な環境問題に迅速かつ柔軟に対処するような場合などに効果が期待される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済団体連合会の地球温暖化対策行政以外が主導する場合のみ自主的取組手法も該当する。</li> <li>・ 個別企業の環境行動計画等</li> </ul>

行政以外が主導する場合のみ自主的取組手法も該当する

# 3 R 行動の対象（例）

	衣服	食	住まい（生活）
リデュース	衣服・靴の補修	食べ物の売れ残りや食べ残しの抑制	レジ袋等の使い捨て製品の自粛や簡易包装製品の選択、マイ食器の利用、カーシェアリング他レンタル・リース制度の活用
リユース	不用品の融通、フリーマーケットでの提供、古着、ハンガーの再使用	びん・ペットボトル等リターナブル容器の再使用	リユース食器の再使用、家具・おもちゃ・陶器・なべ等の生活用品の修理・再使用、自動車リユース部品の利用、解体資材の再使用
リサイクル	使用済衣料品の回収協力	食料容器包装の回収協力、生ごみ・廃食用油の回収、食品トレイ・ペットボトル・卵パック、牛乳パックの回収	割り箸・陶磁器のリサイクル、リサイクル製品の購入、バイオマス肥飼料の利用、使用済製品の回収協力、浄化槽からのリン回収
その他、循環型社会づくりに貢献する行動	事業者による3 Rに資する新たなビジネスモデルの展開（製品の長寿命化や環境負荷低減に資する原材料・製品やサービスの利用） 行政によるグリーン購入・契約や環境管理システムの導入		

**3 R 行動の特性を踏まえ、促進すべき取組を明らかにし、また重点化** 5

# 3 R エコポイントの意義・目的

## 機能

3 R 行動として何が行えるか、行うべきかを資源やエネルギーの削減・廃棄物の減量などの観点から具体的に明らかにする「見える化」機能

消費者・市民、事業者の新たな 3 R 行動を「促進・浸透」させるとともに、既存の 3 R の取組を将来にわたり「持続」させる機能（ポイント（金銭又は社会的評価）を消費者に付与することで、3 R 行動のうち、現状進んでいない、又は更に進めることが望ましい取組を促進・浸透させたり、さらに持続することで、行動を選択しながら柔軟に 3 R 目標を達成するシステムである）

ポイントの還元・利用方法として 3 R 行動を対象とした場合には、ポイントの利用を通じた 3 R 行動など更なる環境配慮活動を「追加促進」する機能

ポイント付与や還元・利用を通じた環境貢献・社会還元、P R 効果や集客振興効果のほか、経営や処理コスト削減などの「3 R とそれ以外の事業活動ないしは社会活動との協調・相乗効果の発現」機能

# 3 R エコポイントの意義・目的

## 目標・目的

行政、事業者、消費者、・市民等の関係者間の連携を  
推進するとともに、特に消費者・市民の高い関心を具  
体的な3 R行動に結びつけ、循環型社会の構築に向け  
て市民レベルから貢献していくことを目的とする。

# 3 Rエコポイントの意義・目的

## ・主体毎の意義・役割（負担）・効果

主体分類	各主体が行う意義・目的	導入に当たっての役割、行うべきこと	効果（メリット）
行政	<ul style="list-style-type: none"><li>・政策目的（3 R推進等）の実現</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・3 R行動の取組実施、企画・検討</li><li>・制度面の確認</li><li>・広報（住民に対する説明）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・廃棄物処理コストの縮減</li><li>・廃棄物処理サービスの向上</li></ul>
事業者	<ul style="list-style-type: none"><li>・3 Rの推進</li><li>・一部の事業では、廃棄物の削減</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・3 Rの取組実施、企画・検討</li><li>・3 Rエコポイント事業の運営</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・販売促進</li><li>・CSRの実施</li></ul>
消費者 ・ 市民	<ul style="list-style-type: none"><li>・3 Rエコポイントの取組への参加</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・3 R行動の実施</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ポイント還元</li><li>・ポイントを活用した環境行動の推進</li></ul>
NPO / NGO	<ul style="list-style-type: none"><li>・3 Rエコポイントの運営への協力による環境行動の推進</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・3 Rの取組の運営への協力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会貢献（NPO / NGOの設立目的の普及）</li></ul>

# 事業効果定着のための必須要素

明確な目標・理念

中心的な役割を担う主体

費用負担を含めた関係者の役割の明確化

具体的には、3Rエコポイント事業の目的や目標、関係者の役割とメリットなどについて、十分な共通理解が得られた上で、適正な事業規模、中心的役割を担う主体の確立、実施期間などを考慮し事業を行うことなどが重要

# 3 Rエコポイントの事業類型

分類		
特定3R行動促進型	リデュース目的型	簡易包装、レジ袋削減行動 外食及び中食の食品ロス削減行動 マイボトル、マイ箸、マイ食器の使用 カーシェアリングなど
	リユース目的型	リユース瓶の使用、回収 生活不要品の使用、持ち込み 小型家電製品の回収 自動車部品の使用 住宅解体古家具、古材の使用、持ち込みなど
	リサイクル目的型	ペットボトル回収、持ち込み リサイクル製品の購入、販売 生ごみの堆肥化、堆肥の使用 蛍光灯回収、持ち込みなど
多目的型	複数3R行動同時促進型	小売業活用 外食業活用 イベント活用 修理、リサイクル業活用 など
	地域振興同時促進型	地域商店街活用 温泉街活用 など
	環境教育同時促進型	公共施設（学校）活用 など
	特定3R行動類型促進型	宅配システム活用 など

# 体制

事業規模	・地域の範囲（広さ）、予算・経費、対象者、廃棄物排出量、消費者の購買範囲
事業の中心となる場所	店舗、工場、学校、商店街、地域など
企画主体	行政、事業者、NPO / NGOなど
運営主体	企画主体が運営主体となる場合 新たに運営主体を構築する場合
原資提供者	行政、事業者
事業への参加者	事業者、市民、行政、NPO / NGO、大学など
ポイントシステム	新規に構築 既存システムの活用（拡充・変更、他のポイントシステムとの連携）

# ポイントシステム

- 新規に構築
- 既存システムの活用
  - 拡充・変更
  - 他のポイントシステムとの連携

## カードの種類と特徴

種類	特徴	カード代金	レコーダー代金
接触型	レコーダーに直接カードを接触させるタイプ	500円	クレジット決済端末：約10万円 ポイント利用のみなら2000円～
非接触型	レコーダーにカードをかざし、データ通信するタイプ	100～500円	レンタルの場合、1.5万円/月
リライトカード	文字を印字消去できる書き換え可能	20～30円	約10万円
バーコード	バーコードを読み取り認証	10円	6000円～
紙カード	スタンプ方式、シール方式など	30円	約3000円 (スタンプ代)

# ポイントの還元・利用メニュー

分類	還元・利用メニュー
物品交換方式	景品
	贈答品
	おもちゃ
	ごみ袋
	自宅記念花
	オリジナルマイバッグ
商品購入連携方式	商品引換券
	商品値引券
	ポイント分割引
金銭交換方式	プリペイドカード
	他ポイントとポイント交換
くじ方式	懸賞に応募
環境活動参加方式	環境団体・活動への寄付
	環境イベントへの参加
	植樹・植花

参考：  
(既存の取組事例より)

# ケーススタディ

既存の事例を参考に、新たなインセンティブ付けをすることでさらなる取組の促進を図ることを想定し、3Rエコポイントの導入方法や関係者の役割分担を検討する。事業実施効果や3Rエコポイント制度導入に向けた課題の整理を行う。

- ケーススタディに当たっての考え方、観点  
現状と課題  
3Rエコポイントによる具体的な事業促進イメージ  
関係者の機能分担イメージ  
事業化に向けた連携・手続きフロー  
3Rエコポイントによる事業実施効果  
3Rエコポイント制度導入に向けた課題と  
施策の方向性

# 課題

事業の発案

準備



事業計画の検討

計画策定



事業の実施

実施



事業の評価

評価

# 事業の発案の段階

## ● 関係者との協議

事業やポイント付与の必要性の共通理解  
果の明確化 課題整理・事業計画の作成  
他地域との連携

関係者ごとの意義・役割・効  
特に、既存の取組においては

## ● 関係法令の整理など行政との相談

都道府県・市町村担当部局への事前相談  
のバックアップ、など各種支援

(行政は) 広報・啓発、事業

## ● 事業イメージの整理

ポイント付与対象の整理 毎日の3R行動のみならず、不定期の取組に  
についても考慮 ポイント蓄積期間の長さ ポイント付与の対象者(個人、  
自治会など) 市町村の施策との連携

## ● 事業効果の明確化

事業構想段階から関係者間での目標の整理・共有

原資提供者の明確化

# 計画策定の段階

- **関係者による事業計画の合意**

事業計画の策定（地域の現状、基本方針、目標、推進体制、事業内容、収支計画、実施スケジュール） 事業者、行政のほか、市民、市民団体、NPO / NGO等の協力

- **3エコポイントの付与・還元方法**

ポイント付与量の重みづけ（客観的に評価する方法の検討） 幅広い還元メニューの設定 ポイントの還元方法の検討（社会的評価等）  
他のポイントシステムにおける3Rに資する還元方法の検討

- **関係者の役割分担の明確化**

3Rエコポイントシステムへの参画の判断材料としての効果把握（コスト削減効果、社会還元、PR効果、地域活性化効果等の定量的評価）

# 実施の段階

- **役割分担に応じた実施**

事業計画に基づく各主体の着実な実施、臨機応変な対応

- **3 R エコポイント事業の普及啓発**

普及啓発、認知方法についても関係者間での連携 事業開始後、事業成果をまとめた報告会や関係者間での意見交換（情報共有、改善提案）の実施

# 評価の段階

事業計画の段階での目標の明確化、中間評価の時期、評価対象の設定（行政が関与する事業）市民への廃棄物処理サービス向上や行政コスト縮減に結びついているか検証

事業効果について、環境側面からの検証（関係者との連携状況、費用負担状況を把握した上で、事業継続性の観点からの見直し及び評価）

# 3 Rエコポイントシステムの導入に向けて

## ● 3 Rエコポイントに取り組もうとする主体に対して

### 関係者の共通理解

様々な関係者と連携を深め、準備段階では、創意工夫や地元のアイデアを十分取り入れ、「小さく生んで、大きく育てる」ことを目指して取り組む。

### ポイント原資負担の合理性・必要性の見える化

事業者、行政等の参画を確保する観点から、ポイントシステムの定量的な成果や関係者の便益等を明らかにする。

### ポイントシステム拡大の推進策（表彰制度、幅広い還元メニュー等）

地域のポイントシステムを後押しするため、多くのポイントを得た消費者・市民を模範として示すことや獲得ポイントに応じた消費者への魅力ある還元・利用メニュー提供することなどを検討

### 3 R行動の更なる見える化（値札、レシートへのマーキング等）

### 3 R行動の更なる推進のため、3 R行動の更なる見える化の検討

### 事業者間、事業者内部における認識の共有

事業の参加者が事業目標や各役割に応じた取組を進める。

### 環境効果や負担状況の客観的評価

事業継続性の観点から、環境効果や負担状況の客観的評価を行うことは重要

# 3 Rエコポイントシステムの導入に向けて

## ● 今後のガイドラインの検討に向けて

明確な目標・理念、中心的な役割を担う主体、費用負担を含めた関係者の役割分担の明確化

多くの関係者の連携支援、関係者が話し合う場づくり

3 Rエコポイントシステム導入のためには、市民、事業者、行政、NPO / NGO等できるだけ多くの関係者による連携や関係者が話し合う場づくりが重要。

事業効果の見える化

ライフスタイルの見直しに対するインセンティブ、市民に対する啓発効果、適正なポイント付与等の観点から3 R行動による廃棄物減量・資源有効利用効果やCO<sub>2</sub>削減効果の定量的評価方法を検討することが必要。

事業者・行政の便益効果・負担経費の見える化

3 Rエコポイント制度への事業者、行政等の参画メリットを明らかにする。

事業計画への中間評価・見直し時期の明記

3 R行動の評価におけるポイントの重み付け

将来的には3 R行動による効果を客観的に定量化した結果を用いたポイントの付与が望ましい。

# 3 Rエコポイントシステム導入のためのガイドライン (イメージ)

## 前提

3 Rエコポイントとは 3 R行動の具体例

3 Rエコポイントシステムの導入の意義・効果

意義 導入のための必須要素 関係主体別の導入効果 3 R効果測定手法

コスト・ベネフィット手法 CO2削減効果手法

3 Rエコポイントシステムの導入の手順

導入の進め方 フロー 準備内容(発意、推進体制、関係者の理解促進)

事業計画の策定 各主体の役割

どのような事業を構築するべきか。

事業の種類 目的 規模 ~ を踏まえたモデル事業例(必要経費など)

類型別のチェックポイント

事業の類型別の取組方法(特定3 R行動促進型、多目的型)

事例紹介

(類型別に)

参考資料

・困ったときは…

・主な施策 ・各種効果測定方法 ・参考文献